

# 地域防災対策

大規模災害時には、消防署をはじめ市や県などの防災機関の活動が遅れたり、阻害されたりすることがあります。このため平時から、「自らの命は自らが守る」という自助の考えが大切です。

また、初期消火、被災者の救護、避難誘導などを行う自主防災組織の共助が重要な役割を担うことになります。日頃から近隣との交流を深め、地域全体で防災に取り組むことが大切です。

## 防災市民組織「自主防災会」

「自主防災会」は、地域住民が自発的に防災活動を行う組織です。新座市では全ての町内会に「自主防災会」が結成されています。全市民が地域の自主防災会に積極的に参加することが望まれます。防災訓練は、消防署や消防団による指導のもと、自主防災会の自主的な計画及び運営により行われています。

## 「自主防災会」の活動内容の例

班構成	平常時	災害時
本部(総務班)	防災知識の普及・啓発 会の庶務及び経理	市災害対策本部との連絡 防災機関との連絡 各班の役割調整 活動方針の企画
情報班	防災関連情報の収集・記録	災害状況の把握・伝達 防災機関等との緊急連絡
消火班	消火訓練の実施	消火体制の緊急確立 近隣事業所との連携 消防機関への協力
救援救護班	救援救護訓練の実施 診療所・医療機関との協議 地区内の避難行動要支援者の把握	要救出者等の把握 応急救援救護活動 医療機関等への搬送
避難誘導班	避難場所・避難経路の確認 避難誘導訓練の実施	避難経路の安全確認 避難誘導 医療機関等における混乱防止
給食給水班	地元商店等との協議	給食物資等の調達と配分 炊き出し



## 地域で災害を乗り越えるために

高齢や障がい、妊娠などを理由に災害時に自ら避難することが困難な方や、言葉が不自由で不慣れな外国人や乳幼児など(要配慮者)が、被害を受けることが多くあります。

地域が一体となって災害を乗り越えるには、日頃から交流を図り、地域全体で防災に取り組むことが大切です。

### 要配慮者の立場になって防災環境を点検する

- 避難経路は車椅子で通れるか、放置自転車などの障害物はないか。
- 聴覚・視覚障がい者への警報や避難指示の伝達手段はあるか。
- 外国人向けの掲示や広報手段があるか。



### 避難する場合はしっかり誘導する

- 高齢者や乳幼児など、手をつなぐ、背負うなどによりしっかり援助しましょう。
- 言葉が通じない外国人には、声をかけ、身振り手振りを交えて誘導します。
- 障がい者などは地域で具体的な救援体制を定めておくことが重要です。一人に対して複数の住民による支援が必要です。
- 日頃から近隣の方と顔の見える関係を構築し、コミュニケーションを図っておくことが重要です。



### 心のケアも忘れない

- 災害時の混乱や被害が大きいくほど、誰もが殺伐とした気持ちになりがちです。そんな非常時にこそお互いへの温かい思いやりや助け合いが必要です。



### 復旧活動にも参加してもらおう

- 高齢者や子どもたちにも被災後の復旧活動に参加してもらいましょう。何もしないことがストレスや体調を崩す原因になることがあります。
- 誰もが災害発生時の初期消火や応急手当などができるよう、日頃から防災訓練を実施することが有効です。

